

# 知的障害者雇用に農園

## 豊明、来月下旬オープン

障害のある人たちの一社「エスプールのプラ雇用を支援する民間会ス」(東京)が、知的



エスプールのプラが運営する千葉県原市の農園(同社提供)

障害者らの雇用の受け皿となる農園を豊明市内に整備している。十月下旬にオープンし、最終的には障害者六十人が働く予定だ。同社は同市杏掛町の約六千七百平方メートルに、野菜を養液栽培するビニールハウスを二棟建設する。同社の農地を民間企業に貸す形で、企業が雇用している障害者が農園で働く。

障害者雇用促進法で、企業は障害者の法定雇用率2・0%を課されている。障害者雇用のニーズがある一方、雇用された多くが身体障害者で、知的・精神障害者の雇用は進んでいない。そこで同社は、知的障害者が働きやすい農業に着目し、民間企業に農地を貸すサービスを二〇一一年に始めた。現在、千葉県内の農園五カ所で、知的障害者を中心に約三百五十人が働いている。豊明市での農園整備は、市の誘致を受けて実現した。八月にあった両者の協定締結式で市は、市内の障害者を積極的に雇用するよう同社に求めた。

締結式に出席した浦上壮平社長は「自治体の協力により農園を開設するのは初の取り組み。豊明の農園のモデルを全国に広げていけたらと思う」と話した。(森若奈)



700万人目に入場した川口澄美玲ちゃん(前列右)ら。長久手市のモリコロパークで

入場者700万人で認定証など贈る 県児童総合センター 長久手市の愛・地球博記念公園(モリコロパーク)内の県児童総合センターの入場者数が十九日、一九九六年の開館から数えて七百万人に達した。七百万人目は、日進市から両親と弟と訪れた川口澄美玲ちゃん(三)。同センターから認定証や記念写真などの記念品が贈られた。



街角ユース 〇非行防止で鳴海絞体験 中川署は、地元中学生らを対象とした鳴海絞体験教室を同署で開いた。65人が参加し、名古屋の伝統工芸に触れた。写真。子どもたちに地域と関わりを持つてもらい、非行防止につなげることが狙い。近清商店(緑区)の鳴海絞職人、近藤泰仁さんの指導を受けながら、手ぬぐいに思い思いの模様を染めた。